

所長の退任あいさつ

科学技術創造立国に呼応して

鹿児島県工業技術センター
前所長 原 尚 道

1994年6月に着任以来昨年11月末の離任まで、歴史は動くときは内外ともに急激に動くということを感じて体験させられた2年半でした。その間、皆様方には終始あたたかいご指導とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

在任中特筆すべきは、国が「科学技術基本法」、それを具体化するための「科学技術基本計画」、また「地域における科学技術活動の活性化に関する基本指針」を公布して、日本は「科学技術創造立国」を目指すことを明確に打ち出したこととあります。工業技術センターにおきましても、それに呼応する形で21世紀を目指す新しい仕組みを創る試みを始めました。

その一つが組織と業務指針の見直しであります。工業技術センター発足以来の7部2室制を9部に拡充し、工業技術センターは、①研究開発を基盤とする「技術的拠りどころ」、②開かれた工業技術センター、③交流・連携・情報発信の拠点、④未来を支える頭脳づくりを目指すという方向付けを行いました。重点研究開発分野も、①地域資源の高度利用、②新素材・新材料開発、③バイオ・食品開発、④生産・加工・システム技術、⑤人間・環境・デザイン技術、⑥電子・情報技術の6分野に拡充しました。施設面では、産学官連携による研究開発の場として「システム技術開発センター」の建設が決まりました。

これらの新しい仕組みに沿った活動は、すでに目に見える成果になりつつあるもの、まだ胎動の域にあるもの等、進捗の差はありますが着実に根付き広がりつつあります。これらの中から、21世紀を担う鹿児島県らしい個性的な技術が創造されるものと期待しております。その上、今年は工業技術センターは創立十周年、いたずらに過去を振り返るよりは21世紀を展望する前進の年にしたいものです。

最後に、皆様方のご健勝と今後ますますのご発展を祈念いたしまして退任のご挨拶といたします。

TOPICS

広域共同研究講習会の開催

平成5～7年に九州5県（鹿児島、熊本、佐賀、長崎、福岡）で実施した「スマート・ストラクチャーセラミックスに関する研究」の成果普及講習会を、11月14日に当センター大会議室で開催し、県内企業や大学等から38名の参加を頂きました。

特別講演として三菱重工業株式会社名古屋航空宇宙システム製作所の山本哲也氏に「航空宇宙機器への複合材料適用」と題して、航空機に使用されている炭素繊維強化プラスチック（CFRP）や宇宙往還機（HOPE）に使用される炭素繊維／炭素複合材料（C/Cコンポ）などの複合材料の開発から実用化までを講演して頂きました。

成果普及講習会は、「スマート・ストラクチャーセラミックスに関する研究の総括：九州工業技術研究所」、「固体電解質型ガスセンサの開発及び腐食劣化診断機能に関する研究：福岡県」、「固体電解質型燃料電池における積層構造と自己修復機能に関する研究：長崎県」、「圧電機能セラミックスの薄膜化及び構造材料への展開：佐賀県」、応力検知能力を有する構造用セラミックス材料に関する研究：熊本県、「高温劣化センシング機能を有する高靱性セラミックス構造材料の開発：鹿児島県」について、各県の担当者が口頭発表を行いました。

発表内容は基礎的かつ先端的な分野のため参加者も研究開発に関係する人が多く、学会発表のような雰囲気では疑問応答がなされました。

なお、当日のテキストは若干の余裕がありますので、御希望の方は素材開発部・神野まで御連絡下さい。

